

## 個別リスクに対する管理策の検討 リスクアセスメントの考え方

### ■ 想定する代表的サービスに関し、主なリスクについて検討

#### □ 対象サービス

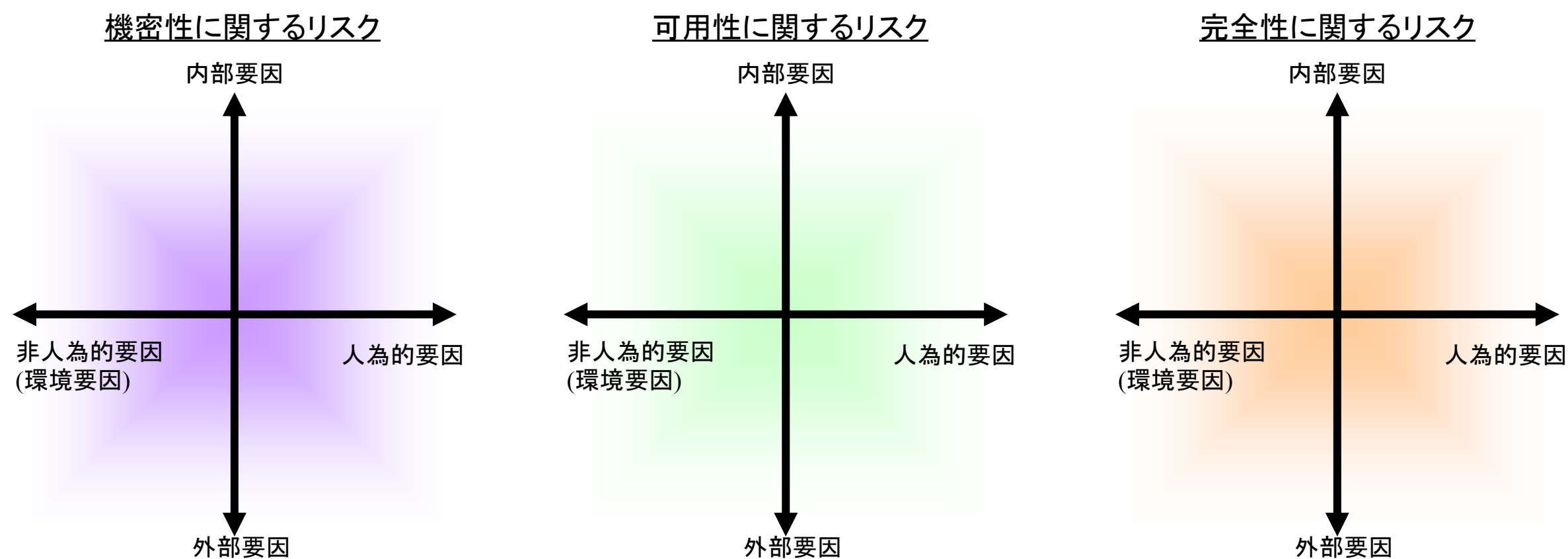
➢ 次ページに掲げる14のサービスについて、その特徴に基づいて次々ページの通り分類

#### □ 主なリスク

➢ 機密性・可用性・完全性に関するリスクについて、要因ごとにすべての象限を網羅して特徴的なリスクを想定

#### □ 検討内容

➢ 関連規定(法令・類似既存事業者約款等)の調査、技術的対策の整理、運用的対策の検討



## 個別リスクに対する管理策の検討 サービスの類型化

分類		サービス内容	対象者				
			視覚	聴覚	車いす	高齢者	健常者
現在位置案内		場所情報コードを取得した際に、現在位置を地図とともに表示する。		○	○	○	○
		必要に応じて、音声で、最寄りランドマークからの相対位置や住所の情報を提供する。	○				
施設情報提供	現在地周辺	現在位置周辺の施設(駅・商業施設・観光地・イベント会場・公共施設等)を検索し、それに関する詳細情報を提供する。	○	○	○	○	○
	任意の場所	移動の目的地となる任意の場所の施設(駅・商業施設・観光地・イベント会場・公共施設等)を検索し、それに関する詳細情報を提供する。	○	○	○	○	○
経路案内	経路探索	検索した施設や、何らかの方法で設定した施設を目的地とした経路を探索する。	○	○	○	○	○
		経路探索の際に、障害者、高齢者等に対して、それぞれの特性にあわせて、危険な箇所や通行できない箇所を避けた経路を探索する。	○		○	○	
		経路探索の際に、歩行経路とともに、公共交通機関の利用経路も含めた経路を探索し、乗り換えの情報を提供する。	○	○	○	○	○
		探索した経路につき、画像もしくは音声で大まかな経路情報を提供する。	○	○	○	○	○
	経路誘導	探索した経路にそって目的地に移動する際に、分岐点において目的地の方向を画像及び／または音声で案内する。	○	○	○	○	○
		乗り換え駅において、乗り換え路線のホーム(付近)まで経路誘導する。	○	○	○	○	○
注意喚起	経路誘導の際に、視覚障害者に対し、階段・段差・幅員変化・障害物・横断歩道(信号の有無)・踏切の存在などの、注意が必要な道路構造情報を提供する。(電柱等の許可された占用物件を含む)	○					
	経路誘導の際に、下り急勾配や、通行可能であるが注意すべき段差などの道路構造情報を提供する。			○			
緊急情報	公共交通機関の乗り場・改札等において、その路線および近隣路線に事故・遅延が発生している際に、その旨情報提供する。	○	○	○	○	○	
	地震等の災害(阪神大震災級を含む大地震および洪水)が発生した際に、最寄りの避難場所を地図で表示するとともに、音声で大まかな位置を案内する。	○	○	○	○	○	

# 個別リスクに対する管理策の検討 サービスの類型化

